

# あいち農産物生産流通レポート

平成30年7月号

	ページ
◎ 地域トピックス	
・ 尾張果樹振興会いちじく現地研究会が開催されました (尾張農林水産事務所)	1
◎ 東日本情報	
・ 料理教室を活用した情報集積・発信 (東京事務所)	2
◎ 西日本情報	
・ 水田転作作物の生産動向について (園芸農産課)	4
◎ フラワーページ	
・ 平坦地における鉢物の物流効率化について (愛知県花き温室園芸組合連合会)	5
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	9
・ 名古屋・東京市場における青果物の7月の見通し	10
◎ 花き	
・ 切り花・鉢花の7月の見通し(県内市場)	22

※今月、「情報サロン」はありません。

## 内容についての問合せ先

愛知県農林水産部食育消費流通課 (052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ (03)-5492-5400

平成29年4月号から、「全国における主要農産物の輸出入実績」、「関連指数」のページはなくなりました。それぞれの情報につきましては、

### 【輸出入実績】

農林水産省ホームページ内「農林水産物輸出入統計」  
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kokusai/index.html>

### 【消費者物価指数】

全 国：総務省統計局ホームページ内「消費者物価指数月報」  
<http://www.stat.go.jp/data/cpi/>  
名古屋：愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」  
<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/toukei/bukka.html>

### 【農作物価指数】

農林水産省大臣官房統計部「農作物価統計調査」  
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noubukka/>

### 【名古屋市小売価格】

総務省統計局「小売物価統計調査」  
[http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?\\_toGL08020101\\_](http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_)

を御覧ください。



## 尾張果樹振興会いちじく現地研究会が開催されました

尾張農林水産事務所

平成 30 年 6 月 20 日(水)に愛知県農業総合試験場（長久手市）において、尾張果樹振興会の主催で「いちじく現地研究会」が開催されました。この研究会はいちじく栽培における生産技術及び所得向上を目的に、2年に1回開催しているもので、尾張管内のいちじく生産関係者 43 名が参加しました。まず始めに、いちじく栽培におけるアザミウマ類対策についての講演を行いました。その後、試験研究ほ場を視察する予定でしたが、雨のため予定を変更して室内での説明となりました。

### 1 講演

講演に先立ち、管内各地区の担当者等からいちじくの生育状況及びアザミウマ類対策について報告があり、生産者同士の情報交換を行いました。

続いて、農業総合試験場環境基盤研究部病害虫研究室の市川主任研究員による「イチジクのアザミウマ類防除について」の講演がありました。講演ではアザミウマ類の生態や発生消長等の基本的な話や、様々な防除対策について説明がありました。産地では、アザミウマ類による被害が問題になっており、参加者は真剣に聞き入っていました。

講演後には、防除ネットや反射シートの効果的な使用方法、薬剤散布のタイミング等について、質問が多数出され、予定時間を延長するほど活発な意見交換が行われました。



講演（質疑応答）の様子

### 2 試験研究概要説明

農業総合試験場園芸研究部落葉果樹研究室杉原主任研究員より、試験研究の概要説明がありました。オリジナル品種の育成やIPM（総合的病害虫管理技術）の確立などの試験研究状況が紹介され、生産者から研究内容について多くの質問が出されました。



試験研究概要説明の様子

参加者からは、「アザミウマ類の生態がよくわかった。」「今回の講演内容をもとに病害虫防除に努めたい。」といった感想が聞かれ、また、研究会終了後も生産者同士の意見交換が続くなど有意義な現地研究会になりました。

今後も、尾張果樹振興会いちじく部会の活動が一層充実するよう支援していきます。

## 料理教室を活用した情報集積・発信

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

5月21、22日の両日、(一財)自治体国際化協会(以下、CLAIR)シンガポール事務所と東京都の共催による「2018海外経済セミナー」が、東京都庁第二本庁舎ホールで開催されました。「東南アジアにおける自治体の海外展開の方策について」を演題に、主にシンガポールを拠点に活動する海外と国内の6つの企業の代表、担当者が講演を行いました。

その中から、自社の料理教室を「情報集積・発信のプラットフォーム」として活用することを自治体や企業に提案する株式会社ABC Cookig Studio(以下、ABC社)の取組について紹介します。

### 1 日本好きが集まる料理教室

ABC社は、拠点となる料理教室を国内に125店舗、アジア地域の8か国に26店舗を展開しており、今後も拡大を予定しています。教室の特徴は小グループ制で、4~5人程度の受講生に1人の講師が張り付き、皆で料理や食材の話、世間話をしながら調理を進めるスタイルをとっています。そのため、教室ではごく自然にコミュニティが形成され、情報交換と情報共有が活発に行われます。

受講生側の目的は、国内では料理スキルの向上が中心となりますが、海外では日本好きが集まるコミュニティに魅力を感じ、「日本や日本料理が好き」「仲間づくり」「SNSのネタ集め」などの理由から参加しているとのこと。アジアでの受講生は、日本文化や日本に関する情報を求める20~30代の女性が中心で、9割が訪日経験を持ち、さらに毎年日本を訪れるリピーター率は3割に上っています。



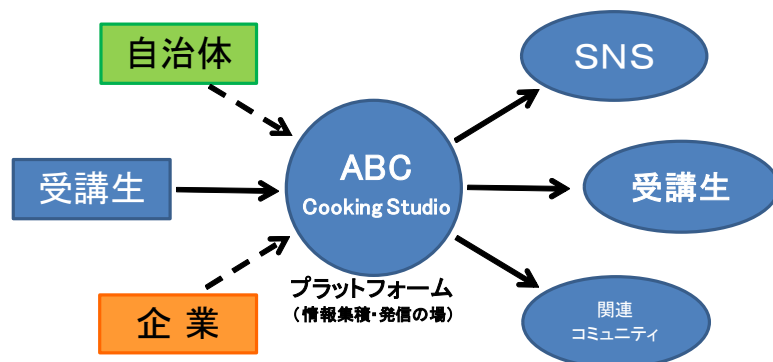
ABC社の講演風景

### 2 情報集積・発信のプラットフォームとしての活用

料理教室には、料理だけでなく日本の食材や訪日観光などの様々な情報が受講者を介して集まり、話題が共有され、そして拡散されます。つまり、料理教室が情報を集積・

発信する「プラットフォーム」となります。

ABC社は、このプラットフォームとしての機能を活用することで、自治体の農産物や企業の製品の輸出促進、あるいはインバウンドの誘致に繋がるPRなどが可能となることを、自治体や企業に提案しています(図1)。



※料理教室が核(基盤・手段)となって、情報の集積・共有・発信が活発に行われる  
 ※企業や自治体は料理教室に情報、モノを提供してPRを狙う

図1 料理教室を核とした情報集積・発信イメージ

特に海外の受講生には、ブロガーや芸能人、メディア関係者といったSNSやブログを通じた発信力、周囲への影響力の強い人が多く、団体旅行から個人旅行へとシフトし、多様で細かな情報が求められる訪日観光や、アジアで関心の高まっている日本の料理、農産物の効果的な情報発信とPRが期待できるとのことでした。

### 3 レッスンタイアップ

ABC社がCLAIR・自治体と連携した情報発信の1つとして、自治体が「特産品等の物品提供」「食や地域に関する講師派遣」「レシピ提供」を行い、ABC社の海外教室において、日本文化の講義と料理体験を行う『レッスンタイアップ』があります。一般参加者に、情報発信力のある人物（人気ブロガーなど）を加え、SNSやブログ、当日取材に訪れるメディアなどを通じ、自治体や地域の食材の魅力をPRしていく取組です。

この取組では、輸出を見込む食材のPRやブランド化、参加者アンケートによる市場調査ができるほか、食を通じて自治体への関心を高め、地域への観光誘致に繋げることも可能です。

### 4 モニターツアー

また、ABC社の海外受講生及びスタッフ（講師等）を対象とした、日本国内のグリーンツーリズムの『モニターツアー』も実施されています（図2）。レッスンタイアップと同じく、受講生を強力な情報発信者として位置づけるとともに、ABC社の海外スタッフを参加させることで、ツアーでの知識や体験が帰国後の料理教室で活かされ、海外スタッフの地方自治体や食材に対する理解促進と情報発信力強化が図られています。

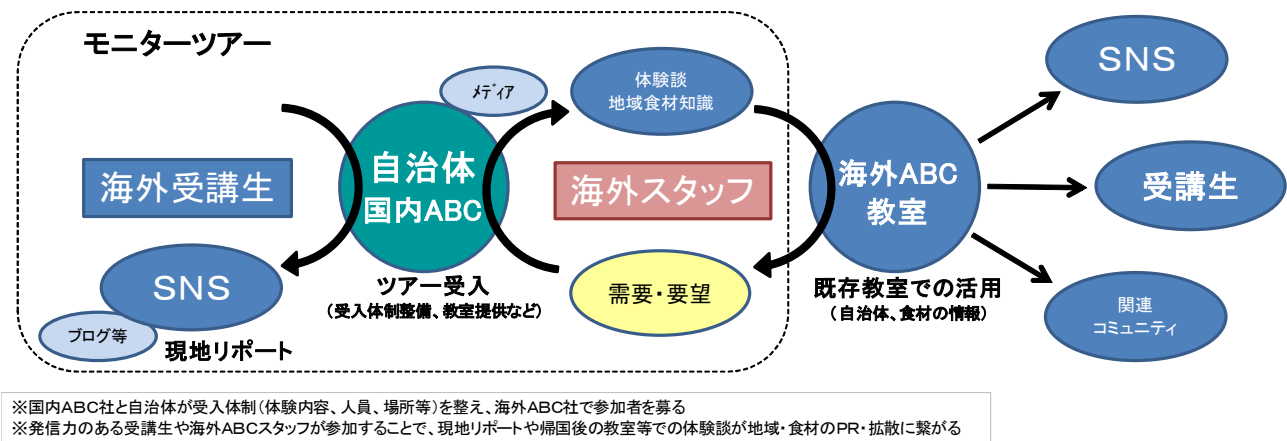


図2 モニターツアーによる情報集積・発信イメージ

### 5 日本に関心を持つ人々への情報発信

ABC社は、これまでに青森県や名古屋市などの自治体、JAなどの農業団体とコラボした情報発信に取り組んでいます。同社は、料理教室を「情報集積・拡散のプラットフォーム」として活用するなど、不特定の対象に情報を拡散するのではなく、日本に高い関心を持つ層に向けて情報を発信し、効率的に需要を呼び起こす会社であることが伺えました。

インバウンド事業や農産物の輸出促進など、今後、自治体が海外に向けてPRを行う機会は増えてくるとは思われますが、こうしたノウハウを持つ会社とのコラボや、日本に関心を寄せる人々を対象としたPR手法は、有効な手段になると思われました。

## 水田転作作物の生産動向について

園芸農産課

国の統計によると主食用米の年間需要量は、毎年約8万トンずつ減少する傾向にあります。主食用米の需給バランスを確保するとともに水田を有効活用するため、県内では様々な作物が作付けされています。ここではそれらのうち、代表的な作物である麦類・大豆及び飼料用米の生産動向について説明します。

## 1 麦類・大豆

麦類・大豆は西三河地域、豊田加茂地域及び海部地域を中心にブロックローテーションにより水稲と組み合わせた2年3作型で作付けされています。

## (1) 小麦・大麦

小麦は、本県の転作作物の主力で、29年産では5,530haが作付けされ、23年産と比較して260ha増加しました(図1)。品種は、県が育成した日本めん用品種「きぬあかり」が29年産で作付面積の8割以上を占めています。また、県育成のパン・中華めん用新品種「ゆめあかり」の生産も28年産から始まり、30年産は200ha近くに拡大しています。今後は、作付面積の全てが県育成品種の「きぬあかり」、「ゆめあかり」となる予定です。

大麦は、大口町、扶桑町及び岡崎市で六条大麦が80ha程度作付けされており、麦茶に使用されています。

## (2) 大豆

大豆の作付面積は26年産までは約4,300haで横ばいでしたが、29年産は4,530haと、23年産に比べて250ha増加しています(図1)。

大豆作では、単収が全国平均を下回り、年次変動の大きいことが課題です。この課題に対して、莢がはじけにくく(難裂莢性)、収穫ロスを減らすことが期待される新品種「フクユタカA1号」を29年に奨励品種とし、導入を進めています。

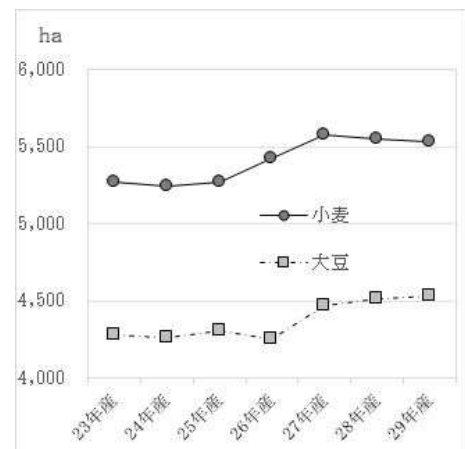


図1 小麦及び大豆作付面積の推移

## 2 飼料用米

飼料用米は、麦類や大豆に不適な湿田でも作付けでき、新たな機械投資を必要としないため、尾張地域の平野部を中心に面積が拡大しています。29年産の作付面積は1,780haで、28年産並でしたが、23年産と比較すると約2.5倍の作付面積となりました(図2)。

飼料用米の多くは主食用品種を用いて作付けされていますが、多収品種の作付けも増加しています。県が育成した「もみゆたか」は多収品種として飼料用米に適しており、28年に奨励品種となり、30年産から種子供給が行われています。

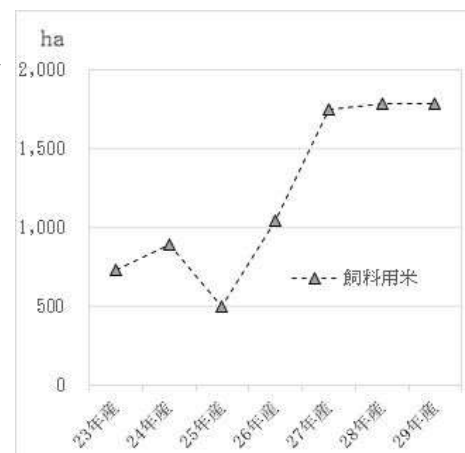


図2 飼料用米作付面積の推移

なお、麦類、大豆、飼料用米の生産は、国の経営所得安定対策等による交付金等の対象となっています。



## 平坦地における鉢物の物流効率化について

愛知県花き温室園芸組合連合会

愛知県は、昭和 37 年から 55 年間連続して花き産出額が日本一の「花の王国」です。国の統計によると、平成 28 年産の花き産出額は、572 億円（全国シェア約 16.2%）で、このうち鉢物類は 232 億円（同約 23.9%）と、鉢物生産をはじめ花き生産が非常に盛んです。

しかし、近年は市場価格の低迷に加え、燃油や資材費などの生産コストの上昇やドライバー不足等による運賃の高騰、さらには、集荷物の減少等による運送の集荷エリアの制限など、生産・流通場面で鉢物生産者の経営環境は厳しさを増しています。このような中、平成 27 年度から、愛知県花き温室園芸組合連合会鉢物部会、豊明花き株式会社、日本植物運輸株式会社及び愛知県で構成する検討会を開催するとともに、鉢物の物流効率化について調査し、課題や解決策の検討をしました。（表 1）

表 1 県内の鉢物集荷方法と課題、解決策(案)について

集荷方法		現状の対応	課題	解決策(案)
①庭先集荷	中山間地	○集荷便の利用	○集荷便の減少 週 2 回→週 1 回 集荷なしの場合有 ○出荷先の減少 ○物流コストの上昇	○集出荷場整備 (中間的な集出荷場含む)
	平坦地	○集荷便の利用	○物流コストの上昇	○集出荷場整備 (中間的な集出荷場含む)
②集出荷場 知多地域、西尾市、 安城市、田原市		○自家トラックで 集出荷場へ搬入	○集出荷場への搬入 負担 ○物流コストの上昇	○横持ち集荷*の導入 ○運送業者の集約化

※生産者のほ場から集出荷場まで運送業者等を利用して集荷すること  
またこれらの輸送によって発生する運賃を「横持ち運賃」という。

### 1 県内の鉢物生産者のおかれている状況

愛知県内の鉢物の集荷方法は、集出荷場がある地域とない地域で異なり、集出荷場がある地域では、各生産者が荷物を集出荷場まで持込みますが、集出荷場がない地域では、運送業者の集荷便が各生産者のほ場まで荷物を集荷する庭先集荷がほとんどです。

また、愛知県は関東と近畿の中間に位置するという立地上の有利さに加え、生産量が非常に多いことから各花き市場が用意するトラックが多く、集荷の不便さを感じている生産者は少ないと考えられます。しかし、他県では集荷便がなくなったため、廃業に追い込まれた庭先集荷の生産者も出てきています。

当県でも、中山間地では、集荷便や出荷先の減少が課題になっており、将来的に運送業者の集荷便がなくなり、安定的に出荷できなくなる可能性があります。このことから、平成 28 年度に既存の集出荷場を利用した出荷モデルの検討を行った結果、現在の集荷方法よりもコストが上がる代わりに出荷先が増加すること、自前で出荷トラックを用意するよりコスト減が見込まれることを確認しました。

一方、平坦地（尾張・海部地区）では、複数の運送業者が各生産者のほ場まで来る庭先集荷が主体で、現状課題にはなっておらず、生産者の物流問題に関する意識も高いものではありません。しかし、昨今の物流業界を取り巻く厳しい状況から、平坦地においても、運送業者が将来的に集荷に来なくなる場合も考えられ、出荷先の減少や物流コストの上昇が懸念されます。これらの問題に対応するために、平成 29 年度は平坦地の海部地区の生産者の協力を得て、試験・検証を実施しました。

## 2 調査内容

事前に尾張・海部地区で聞き取り調査をしたところ、庭先集荷に頼る生産者が多く、両地区ともにトラックを所有していない生産者がほとんどで、新たにトラックを購入、維持することは経費の面から考えても現実的ではありませんでした。一方、既存の施設を集出荷場に利用するなど、物流拠点の整備をしたとしても、集出荷場まで荷物を持ち込む、「横持ち運賃」が発生するため、輸送コストの上昇が課題となります。

そこで、運送業者 1 社のチャーター便が全ての生産者のほ場を回って集荷し、既存の集出荷場等で行き先別に仕分けて、各市場に輸送する方法を検証しました。（図 1）

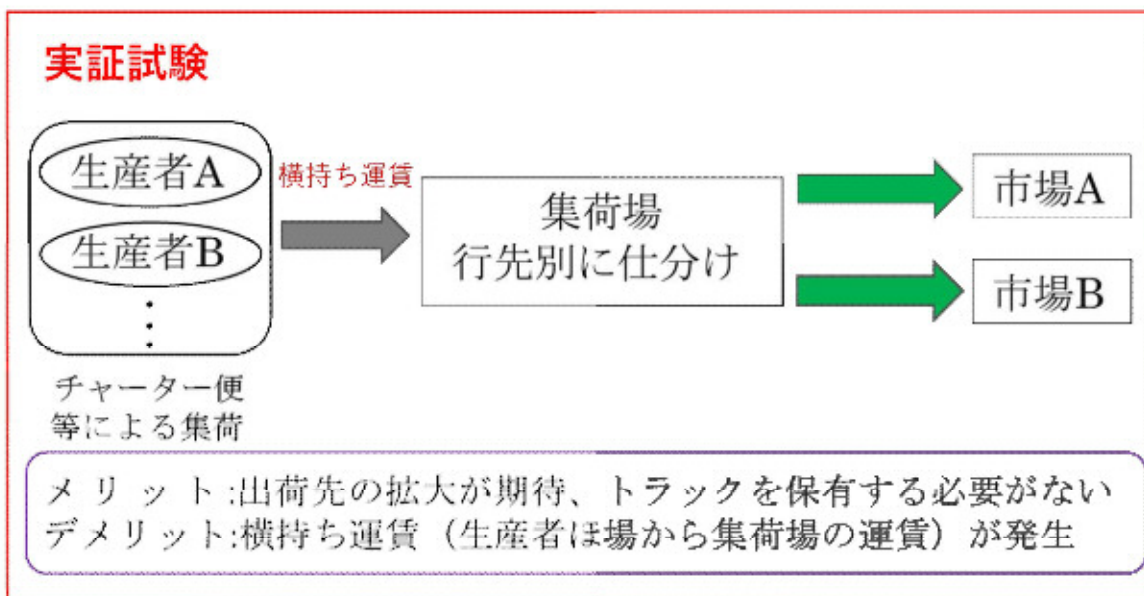


図 1 実証試験で検証した出荷モデル

尾張、海部の両地区に近い既存の集出荷場は、隣県の岐阜県内の流通センターとなります。現在、同センターの利用は、岐阜県の実証試験では同流通センターに集出荷する運送業者の協力を得て、同流通センターを経由する場合を想定した輸送コストを検証しました。

実証試験には、弥富市、愛西市、蟹江町、飛島村の鉢物農家 8 戸が参加しました。まず、伝票と現物の確認作業を行い、生産者のほ場で市場別の出荷台車に積み込みました。集荷場で積荷を行き先別に仕分けて、市場別のトラックで配送しました。また、今回の実証試験では、集荷シールをトレーに貼ることで、出荷先市場の判別を容易にしました。





出荷台車への積込作業

記入例

出荷者	〇〇〇〇		
品名	〇〇〇〇		
サイズ	4寸	入数	11
	花満	5	ケース

出荷市場名を記入

トレーに貼る集荷シール

### 3 調査結果

今回、尾張・海部地区の生産者も岐阜県内の流通センターが利用できるようになったと仮定し、現在の出荷運賃と組合員価格の出荷運賃を比較しました。今回検証した出荷方法では、現状の生産ほ場から各市場に直接出荷する方法に比べて運賃が高くなる結果となりました（表2）。一方で、流通センターを利用することで取扱市場数の拡大が見込め、出荷先の増加につながる可能性があります。

表2 各市場への運賃の比較

	生産ほ場～各市場	生産ほ場～流通センター～各市場	差額
市場A (中国地方)	384円	429円	+45円
市場B (中国地方)	338円	390円	+52円
市場C (近畿地方)	253円	304円	+51円
市場D (近畿地方)	231円	312円	+81円
市場E (首都圏)	308円	403円	+95円

### 4 まとめ

今回仮定した岐阜県内の流通センターを通して出荷する実証試験では、生産ほ場から流通センターまでの横持ち運賃とセンター販売手数料が発生するため、出荷経費が高くなるという結果になりました。

しかし、流通センターを利用した場合、出荷可能な市場数が拡大し、生産者にとって商品を出荷する際の選択肢が増えるため、売上の増加につながると考えられました。

### 5 今後について

今後新たな地域での実証試験は予定していませんが、これまでの実証試験で得られた結果を元に、生産者間でも物流問題に関する議論を進め、身近な問題としてとらえられるように、各生産者部会等を通じて広く周知していく必要があると考えています。



## 愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下  
 わずか : ±2%台  
 や や : ±3～5%台  
 かなり : ±6～15%台  
 大 幅 : ±16%以上

### ○ 名古屋中央卸売市場（品目：アールスメロン）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
29年実績	1,381	276 (20%)	819	541	静岡 (37%) 熊本 (14%) 高知 (14%)
30年見通し	1,300	—	820	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>作付面積は、愛知や静岡で微減、熊本や高知などで減少している。本年の作柄は良好で、3～10日程前進傾向にある。生育の前進化により入荷が急増したため、6月末の市況は安値となった。今後は、入荷が前倒しした分、お盆やお中元の需要期の数量が減り、引き合いが強まる可能性もある。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並となる見込み。</p>			<p>愛知や静岡においては、出荷計画に沿った供給が行われているが、九州などの遠隔地では配送の都合等により、入荷遅れが発生することもある。県内産地においても、適期収穫と出荷に御留意いただきたい。</p> <p>また、作付面積の減少に伴う出荷減や気象状況による出荷時期の前倒しなど難しい部分もあるが、増減幅の少ない安定した出荷をお願いしたい。</p>		

### ○ 東京都中央卸売市場（品目：とうがん）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
29年実績	2,598	793 (31%)	133	155	静岡 (21%) 沖縄 (19%) 神奈川 (18%)
30年見通し	2,500	—	140	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>前年は愛知、静岡が出荷を伸ばしたが、全体の入荷量は前々年をやや下回った。本年は、冬場を支える沖縄が寒さの影響から減少したが、ピークを迎える今後の入荷量次第で総量は十分に回復すると思われる。年明けより続いた品薄感から価格は高値基調で推移したが、夏場の産地からの入荷が始まり、現状は前年並の単価。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>			<p>スマートフォンの普及でレシピ検索が容易となり、インターネット上のレシピも豊富な状況にある中、一般家庭向けの利用方法について積極的な提案を量販店等に行い、売場で紹介してほしい。</p> <p>愛知県産については品質に問題なく、これまでどおり、形や色を揃えるなど高い品質の維持に努めてほしい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の7月の見通し

名古屋市中央卸売市場

6月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	25年	30,327	204	237	239	210	長野 27%
	26年	29,589	213	221	215	210	北海道 12%
	27年	28,893	262	257	266	267	愛知 10%
	28年	28,282	252	254	261	245	群馬 9%
	29年	29,911	213	216	215	208	兵庫 9%
	5ヵ年平均	29,400	229	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	29,100	226	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
長野、北海道、愛知などから入荷する。産地の切り替わりで前半は数量減を見込む品目もみられるが、後続産地が生育良好な品目が多く、概ね順調な入荷を見込む。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。							
だいこん	25年	1,746	91	118	83	83	青森 44%
	26年	1,557	76	78	78	78	北海道 36%
	27年	1,442	117	126	133	107	岐阜 17%
	28年	1,349	121	147	133	101	長野 3%
	29年	1,316	82	86	86	83	
	5ヵ年平均	1,482	97	111	101	90	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	1,400	100	100	100	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
青森、北海道を中心に岐阜などから入荷する。今後の天候次第だが、現在の生育状況は良好で、順調な入荷を見込む。北海道は7月上中旬には荷が出揃う見込み。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。							
にんじん	25年	1,672	124	157	115	105	青森 58%
	26年	1,644	119	136	116	117	北海道 39%
	27年	1,554	147	117	124	199	千葉 1%
	28年	1,484	165	127	169	200	
	29年	1,539	98	113	98	88	
	5ヵ年平均	1,579	130	131	124	141	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	1,500	120	130	120	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
青森、北海道を中心に入荷する。青森、北海道ともに生育良好で、青森は中旬までが入荷のピークとなる。産地の切り替わりもスムーズに行われる見通しで、北海道は平年どおりの入荷を見込む。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。  
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

6月29日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	25年	127,083	250	267	251	234	群馬 16%
	26年	127,260	229	238	227	223	長野 15%
	27年	122,865	274	262	289	274	茨城 12%
	28年	119,621	265	266	276	253	北海道 9%
	29年	125,225	226	233	227	218	青森 8%
	5ヵ年平均	124,411	248	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	124,000	235	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
春先の高温、5月の低温等により、6月は品目によっては産地が切り替わる時期に端境がみられた。不安定な入荷のため価格が変動したが、早い梅雨明け予想もあり、7月の入荷状況は改善される見込み。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。							
だいこん	25年	8,952	90	117	78	80	北海道 56%
	26年	9,212	76	81	72	74	青森 39%
	27年	9,437	108	121	116	94	群馬 2%
	28年	8,283	119	149	122	96	岩手 2%
	29年	8,891	76	83	71	74	千葉 1%
	5ヵ年平均	8,955	93	110	92	83	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	8,700	90	90	90	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道、青森からの入荷が中心となる。北海道は1週間遅れている道南を除き、概ね生育順調。青森は5月の干ばつ、直近の低温、大雨の影響から収穫が遅れる。加工需要の引き合い次第で価格上がるか。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。							
にんじん	25年	6,753	124	137	117	115	青森 45%
	26年	6,895	114	121	109	112	北海道 30%
	27年	6,843	134	110	114	189	千葉 21%
	28年	6,133	150	110	157	191	中国 2%
	29年	6,562	100	112	99	89	埼玉 1%
	5ヵ年平均	6,637	124	118	119	139	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	6,500	110	110	110	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
青森、北海道、千葉からの入荷がほとんどを占める。各産地とも低温だった今冬の影響で、播種時に残雪が消えず、播種及び生育が1週間ほど遅れている。7月は徐々に入荷が増えて量も揃うと見込まれる。 入荷量は前年並で、価格は安値基調となった前年をかなり上回る見込み。							



名古屋市中央卸売市場

6月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
はんぱい	25年	1,529	84	79	83	107	長野 100%
	26年	1,650	64	78	59	64	
	27年	1,413	83	80	77	98	
	28年	1,673	53	54	59	56	
	29年	1,808	52	47	52	58	
	5ヵ年平均	1,614	66	67	65	75	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	1,700	60	60	60	60	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野からほぼ全量を入荷する。長野の佐久などを中心に入荷するが、産地の生育状況は順調で、入荷も順調とみられる。販売は加工需要中心となる見込み。 入荷量は前年をやや下回るが平年よりも多く、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>					
キヤベツ	25年	3,839	105	111	98	108	群馬 53% 長野 30% 茨城 10% 北海道 2% 愛知 2%
	26年	4,227	72	81	66	75	
	27年	4,009	95	92	86	107	
	28年	4,136	77	75	82	80	
	29年	4,486	64	68	61	66	
	5ヵ年平均	4,139	82	85	78	86	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	4,400	70	70	70	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、長野を中心に、茨城などから入荷する。各産地ともに生育順調で、安定した入荷を見込む。今後の天候が良ければ、入荷は前進傾向になるとみられる。 入荷量は前年並で、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>					
ほうれんそう	25年	204	702	871	646	621	岐阜 82% 長野 6% 茨城 5% 愛知 3% 群馬 1%
	26年	183	617	569	667	662	
	27年	183	709	677	701	725	
	28年	182	701	714	748	673	
	29年	186	637	592	689	656	
	5ヵ年平均	188	674	688	689	666	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	190	630	630	630	630	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜を中心に入荷する。岐阜の飛騨が主産地となるが、生育状況は良好。前半は少なめだが、下旬以降は増量が見込まれる。長野、茨城などの他産地の生育も良好で、順調な入荷となる見通し。 入荷量と価格はともに前年並の見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

6月29日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	25年	5,834	88	76	82	107	長野 87%
	26年	5,955	66	75	57	63	群馬 11%
	27年	5,783	81	76	71	95	茨城 1%
	28年	5,783	54	54	53		
	29年	6,679	55	50	53	60	
	5ヵ年平均	6,007	68	66	63	75	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	6,000	55	55	55		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野、群馬からの入荷がほとんどを占める。主力である長野は一部の産地で見られた遅れも解消され、平年並の生育となる。ただし、干ばつの影響や夜温が低いことから若干小玉傾向も見られる。 入荷量は多かった前年をかなり下回り、価格は前年並となる見込み。</p>					
キヤベツ	25年	16,344	97	106	86	100	群馬 68%
	26年	16,028	69	80	66	64	岩手 14%
	27年	15,612	91	89	82	99	長野 7%
	28年	16,232	73	73	75	70	茨城 5%
	29年	16,597	59	68	57	54	千葉 2%
	5ヵ年平均	16,163	78	83	73	77	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	16,000	60	60	60	60	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬を中心に岩手などから入荷する。群馬は、5月の低温による生育遅れが6月の気温高と降雨で回復し、数日の前進がみられる。岩手も生育順調で5日程前進しており、平年通りの入荷が見込まれる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並となる見込み。</p>					
ほうれんそう	25年	923	671	754	609	646	群馬 32%
	26年	972	617	552	640	677	栃木 27%
	27年	990	660	589	717	698	茨城 17%
	28年	923	618	640	612	602	岩手 10%
	29年	958	565	459	643	626	岐阜 6%
	5ヵ年平均	953	626	597	645	651	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	950	600	610	600	590	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬などの関東高冷地と岩手、岐阜からの入荷が中心となる。各産地とも春先からの生育遅れは6月の好天で回復した。関東高冷地は安定した入荷を見込み、岩手と岐阜はピークを過ぎ落ち着いた入荷となる。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

6月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	25年	713	422	410	452	424	愛知 23%
	26年	685	386	403	407	376	大分 18%
	27年	651	464	466	493	468	静岡 12%
	28年	589	463	470	517	451	茨城 12%
	29年	589	404	424	407	393	北海道 7%
	5ヵ年平均	645	427	433	454	422	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	580	450	450	450	450	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長ねぎは愛知や茨城など、白ねぎは大分や静岡などを中心に入荷する。愛知は前年よりやや少ない入荷となる見込み。白ねぎは静岡の生育が前進しており、後半は北海道からの入荷も増える見通し。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
し	25年	2,508	177	198	206	153	長野 99%
	26年	2,780	151	154	150	164	
	27年	2,409	189	159	200	221	
	28年	2,384	134	139	146	133	
	29年	2,478	122	111	126	131	
	5ヵ年平均	2,512	155	152	165	160	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	2,500	130	130	130	130	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野からほぼ全量を入荷する。これからの天候次第となるが、現在の生育状況は良好で、順調な入荷を見込む。玉は大玉傾向が見られる。 入荷量は前年並で、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>					
きゅうり	25年	1,335	295	331	290	275	長野 56%
	26年	1,396	247	249	254	244	北海道 22%
	27年	1,242	296	295	323	280	愛知 6%
	28年	1,316	325	354	347	280	山形 3%
	29年	1,434	269	257	282	268	岩手 3%
	5ヵ年平均	1,345	286	296	298	269	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	1,300	280	300	280	260	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野、北海道を中心に、愛知、東北産地などから入荷する。前半は愛知などの春作が切り上がり、少ない入荷となる見通し。中下旬からは長野などの入荷が増え、数量が戻るとみられる。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

6月29日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	25年	4,456	412	410	438	386	茨城 52%
	26年	4,338	379	427	372	339	千葉 15%
	27年	4,313	483	535	493	433	中国 5%
	28年	4,263	450	477	504	384	埼玉 4%
	29年	4,155	410	475	390	371	秋田 3%
	5ヵ年平均	4,305	427	464	440	383	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	4,300	400	410	380		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に千葉、埼玉などからの入荷となる。7月は露地物に切り替わる。概ね順調な生育となっており、端境もなく安定した入荷が見込まれる。サイズはL、2L中心となる。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>					
し	25年	9,630	186	200	201	157	長野 83%
	26年	9,647	132	157	159	172	群馬 13%
	27年	9,064	197	164	207	219	岩手 2%
	28年	10,020	130	131	136	123	茨城 1%
	29年	9,867	110	97	114	119	千葉 1%
	5ヵ年平均	9,646	150	149	162	157	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	9,600	95	100	100	85	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野を中心に群馬などからも入荷する。主力の長野は、6月に低温により入荷量を減らしたが、7月は病害等の問題もなく、好天が続けば順調な入荷を見込む。加工需要の動きが弱いことが懸念材料。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は動き次第で前年をかなり下回る見込み。</p>					
きゅうり	25年	7,592	279	280	268	289	福島 40%
	26年	7,736	209	216	218	199	岩手 15%
	27年	7,343	268	250	291	264	秋田 9%
	28年	6,835	324	366	355	262	千葉 7%
	29年	7,255	248	241	262	241	山形 5%
	5ヵ年平均	7,352	264	269	277	251	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	7,300	260	270	260	250	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>福島、岩手など東北産地に切り替わる。6月中下旬に端境があり相場を上げるも、7月は順調な入荷で落ち着く見通し。中旬にも入荷ピークを迎え、給食需要がなくなる月末にかけ下げ基調となるか。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

6月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

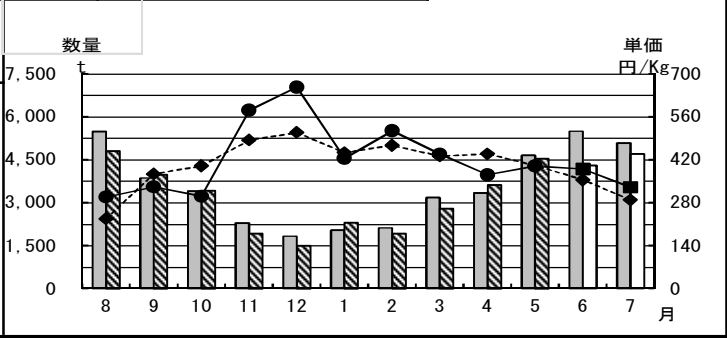
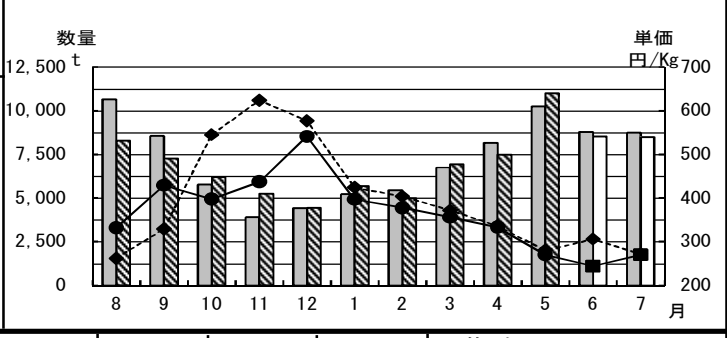
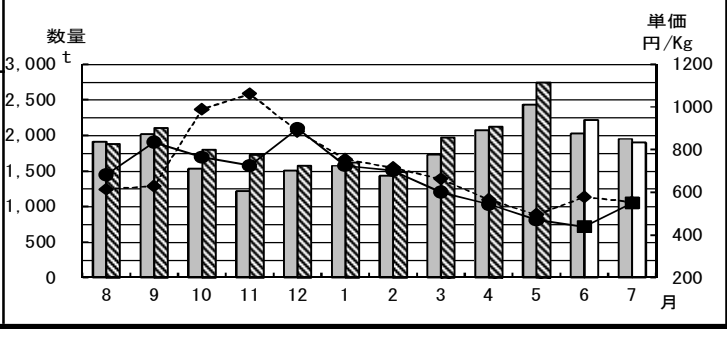
品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ながす	25年	969	276	333	275	238	愛知 41%
	26年	947	271	260	279	279	徳島 16%
	27年	931	337	332	380	322	宮崎 12%
	28年	889	318	315	320	321	山梨 10%
	29年	961	264	270	252	275	茨城 5%
	5ヵ年平均	939	293	302	300	286	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	920	300	330	280	270	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に徳島、山梨などから入荷する。千両なすは愛知が終了して徳島と山梨から、長なすは愛知の西三河からの入荷となる。愛知の夏秋作は若干遅れているが、徳島と山梨は順調に増量する見通し。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
トマト	25年	1,247	363	376	375	344	愛知 32%
	26年	1,442	300	296	317	293	岐阜 31%
	27年	1,451	311	302	358	295	北海道 19%
	28年	1,308	335	330	349	333	三重 6%
	29年	1,602	261	254	255	272	熊本 3%
	5ヵ年平均	1,410	311	308	328	305	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	1,400	300	300	300	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜、愛知、北海道を中心に入荷する。冬春作はほぼ終了し、夏秋作の入荷が増加する。前半は少なめだが、岐阜などの夏秋作はともに作柄良好で、中旬から増量する見通し。干ばつ傾向で食味も良い。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>					
ミニトマト	25年	346	670	673	787	558	北海道 44%
	26年	388	560	541	554	582	愛知 29%
	27年	409	610	542	643	633	茨城 10%
	28年	384	701	623	786	715	熊本 10%
	29年	497	602	585	624	596	長野 4%
	5ヵ年平均	405	626	590	673	617	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	420	600	600	600	600	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、愛知を中心に入荷する。愛知、熊本の冬春作は上中旬に終了する見通し。北海道、長野の夏秋作は生育順調で、上中旬にはまとまった数量が入荷する見通し。 入荷量は前年をかなり下回るが概ね平年並で、価格は前年並となる見込み。</p>					



東京都中央卸売市場

6月29日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	25年	4,553	337	414	304	307	群馬 31%
	26年	4,731	308	327	337	266	茨城 23%
	27年	4,474	369	422	439	297	栃木 20%
	28年	4,273	372	393	378	348	埼玉 5%
	29年	5,077	288	314	280	273	福岡 5%
	5カ年平均	4,622	333	372	345	297	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	4,700	330	380	360	250	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>栃木、群馬、茨城など関東産地からの入荷が中心となる。これから主力となる関東各産地は生育順調だが、終盤を迎える西南暖地の切り上がり早く、7月上旬には端境による減少も見込まれる。</p> <p>入荷量は多かった前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							
ト マ ト	25年	8,167	353	369	343	353	青森 16%
	26年	8,707	300	317	310	281	北海道 14%
	27年	8,934	297	306	345	268	栃木 11%
	28年	7,861	322	301	333	332	岩手 10%
	29年	8,742	272	285	274	259	千葉 7%
	5カ年平均	8,482	308	315	321	297	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	8,500	270	280	280	250	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>東北、北海道からの入荷が本格化し、関東と併せて入荷の中心となる。関東各産地は生育順調だが、東北、北海道はここまでの低温と梅雨の曇雨天により若干の生育遅れが見られる。</p> <p>入荷量は好天に恵まれた前年をわずかに下回り、価格は前年並となる見込み。</p>							
ミ ニ ト マ ト	25年	1,606	587	566	683	511	茨城 26%
	26年	1,726	537	506	568	540	北海道 11%
	27年	1,823	558	506	601	577	千葉 11%
	28年	1,606	658	560	718	687	青森 11%
	29年	1,952	554	533	574	557	福島 9%
	5カ年平均	1,743	577	533	625	573	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	1,900	550	560	570	520	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>茨城、北海道などからの入荷となる。北海道は低温と干ばつに寒暖差の影響も加わり、生育が遅れ気味となっている。茨城は日照量も多く生育順調。</p> <p>入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並となる見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

6月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	25年	398	435	441	516	411	北海道 31%
	26年	526	295	326	318	263	茨城 25%
	27年	446	446	388	481	492	宮崎 13%
	28年	408	421	378	445	422	高知 12%
	29年	430	356	351	370	368	岩手 12%
	5ヵ年平均	442	386	374	420	386	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	430	360	360	360	360	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、北海道、宮崎などから入荷する。茨城はピークを過ぎ、下旬に向かい入荷量が減少していく。前半は端境のため、数量が少なめとなるか。中下旬からは北海道、岩手が増量する見通しで、概ね前年並の入荷が見込まれる。</p> <p>入荷量と価格はともに前年並の見込み。</p>					
ばれいしょ	25年	1,536	126	85	166	132	静岡 29%
	26年	1,554	136	142	150	146	北海道 24%
	27年	1,690	244	296	287	218	長崎 22%
	28年	1,403	188	214	204	182	青森 12%
	29年	1,270	149	152	170	135	愛知 4%
	5ヵ年平均	1,491	170	180	198	164	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	1,500	110	100	110	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>静岡、北海道、長崎などから入荷する。静岡は天候に恵まれ、作柄は非常に良好。芋も大玉傾向。北海道の生育状況も順調。価格が安値推移しているが、各産地ともに生育良好で、厳しい販売が続く見通し。</p> <p>入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	25年	3,688	82	81	82	85	兵庫 65%
	26年	3,626	110	107	110	112	北海道 15%
	27年	3,636	154	154	155	156	愛知 14%
	28年	3,516	159	162	178	156	徳島 2%
	29年	4,088	85	90	88	81	
	5ヵ年平均	3,711	117	118	121	117	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	3,800	100	100	100	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>兵庫を中心に北海道、愛知などから入荷する。愛知は終了に向かい、兵庫の淡路島が中心となる。兵庫の作柄は良好で、順調な入荷を見込む。玉は2LからLが中心。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回るが平年より多く、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

6月29日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	25年	1,911	417	433	474	331	茨城 52%
	26年	2,099	284	313	287	247	岩手 29%
	27年	1,900	412	345	461	445	青森 7%
	28年	1,792	416	378	455	414	福島 6%
	29年	1,968	358	356	340	377	高知 2%
	5ヵ年平均	1,934	375	364	400	360	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	1,900	400	400	400	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、岩手からの入荷が中心となる。茨城は作型の終盤を迎えるも、好天に恵まれ着果及び肥大状況は良好。岩手の露地栽培は梅雨の曇天の影響を受け、生育はやや遅れている。</p> <p>入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
白菜	25年	5,528	147	129	147	171	茨城 37%
	26年	5,899	136	132	138	140	千葉 23%
	27年	5,627	229	264	243	182	静岡 15%
	28年	5,613	173	180	174	164	北海道 9%
	29年	5,506	136	152	138	117	長崎 8%
	5ヵ年平均	5,635	164	171	168	155	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	5,500	60	60	60	60	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、千葉、静岡、長崎などからの入荷が中心となる。九州産の切り上がりが遅れていることに加え、千葉や静岡も肥大良好な豊作傾向であるため、入荷量は潤沢となる見込み。</p> <p>入荷量は前年並で、価格は前年及び平年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	25年	9,915	89	86	89	91	兵庫 29%
	26年	9,198	120	115	119	127	佐賀 23%
	27年	9,262	163	153	172	164	香川 19%
	28年	8,086	171	154	178	180	栃木 5%
	29年	8,876	94	102	95	87	愛知 5%
	5ヵ年平均	9,067	126	121	129	128	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	9,200	90	90	90	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>兵庫、佐賀、香川からの入荷が中心となる。各産地とも生育は順調。市況の悪化を懸念して出荷を調整しているため、産地の在庫は多い。</p> <p>入荷量は前年をやや上回り、価格は出荷調整次第だが前年をやや下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

※アールスメロンの旬別単価は、データが存在しないため表示しない。

6月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	25年	11,166	319	351	336	340	愛知 18%
	26年	10,541	345	351	336	340	フィリピン 16%
	27年	9,121	400	385	391	421	長野 10%
	28年	8,411	430	405	424	461	山梨 8%
	29年	7,766	443	435	439	461	青森 7%
	5カ年平均	9,401	381	381	379	397	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	8,700	410	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>もも、すいか、ハウスみかんなどを中心に入荷する。露地物を中心に入荷が前進している。低温、干ばつ等により生育遅れや小玉傾向がみられた前年に比べ、ももなどが増量して入荷増となる見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						
アールスメロン	25年	256	584	—	—	—	愛知 48%
	26年	250	537	—	—	—	静岡 34%
	27年	227	583	—	—	—	高知 9%
	28年	197	668	—	—	—	熊本 4%
	29年	202	641	—	—	—	茨城 4%
	5カ年平均	226	598	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	190	630	—	—	—	
メロン	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>愛知、静岡を中心に入荷する。生育状況は概ね順調。愛知は平年並の入荷見込み。静岡はやや前進傾向で、上旬までは入荷が多いとみられる。玉は大玉傾向か。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並となる見込み。</p>						
すいか	25年	3,783	156	166	150	159	愛知 27%
	26年	3,732	123	131	109	133	長野 27%
	27年	2,767	140	120	123	182	石川 23%
	28年	2,603	192	172	183	224	新潟 8%
	29年	2,343	195	179	190	224	山形 7%
	5カ年平均	3,046	157	152	147	178	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	2,600	190	—	—	—	
いか	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>愛知、長野、石川を中心に入荷する。作付面積が減少しており、入荷量は減少傾向にある。生育状況は概ね順調だが、面積減もあり過去2年同様に高値推移の予想。 入荷量は前年をかなり上回るが平年よりも少なく、価格は高値だった前年並となる見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

6月29日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	25年	39,489	362	398	351	340	山梨 18%
	26年	39,571	354	422	345	349	山形 12%
	27年	38,282	374	385	374	367	千葉 9%
	28年	34,883	419	407	429	420	青森 8%
	29年	32,851	467	467	461	473	フィリピン 7%
	5ヵ年平均 30年見通し	37,015 32,800	395 420	— —	— —	— —	— —
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	すいか、もも、メロンなどを中心に入荷する。メロンやすいかは、梅雨の影響があるものの春先の好天で前進傾向となっている。露地物のもも、ぶどう、なしなどについても、生育状況は順調。 入荷量は前年並で、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。						
アールスメロン	25年	714	668	750	683	535	静岡 53%
	26年	698	591	621	614	623	茨城 12%
	27年	660	672	717	653	631	千葉 12%
	28年	582	740	777	780	649	高知 10%
	29年	573	767	805	770	713	愛知 8%
	5ヵ年平均 30年見通し	645 550	688 720	734 770	700 740	630 650	— —
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	静岡、千葉、茨城を中心に入荷する。生育は順調で、玉肥大も良好と見込まれる。静岡や千葉は上旬にかけピークとなり、特に千葉は前進傾向のため中旬には終了する可能性がある。 入荷量は前年をやや下回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。						
すいか	25年	14,661	170	180	172	159	千葉 18%
	26年	14,695	140	153	138	134	山形 18%
	27年	14,842	154	140	143	170	神奈川 16%
	28年	12,509	194	176	192	206	新潟 15%
	29年	11,336	222	205	221	240	長野 10%
	5ヵ年平均 30年見通し	13,609 10,800	176 190	171 170	173 190	182 210	— —
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	長野産の入荷が始まり、中旬にかけてピークを迎える。鳥取は上旬まで、千葉と新潟は中旬までを中心に入荷する。神奈川、山形は中旬から本格化する見込み。 前進傾向のため、入荷量は前年をやや下回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。						



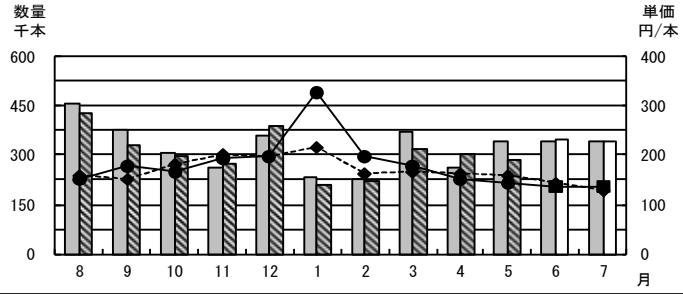
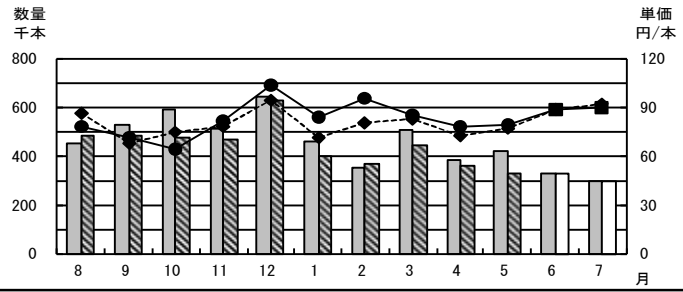
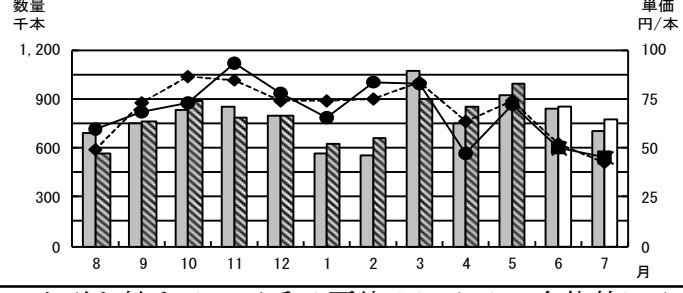
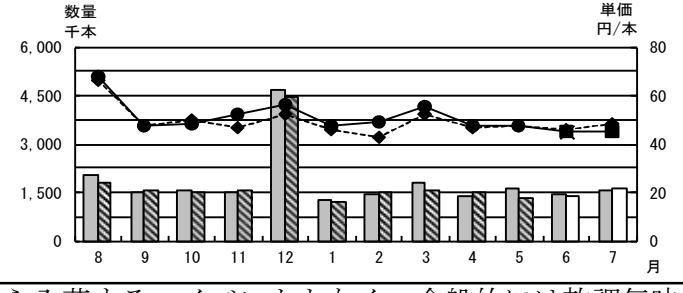
# 切花・鉢花の7月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 6月30日現在）

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
	実績等					
輪 ぎ	実績	25年	2,203	46		
		26年	2,091	31		
		27年	2,088	39		
28年		1,772	49			
29年		1,781	38			
5ヶ年平均		1,987	41			
30年見通し		1,800	39			
概要	<p>愛知、三重、長野から入荷する。白が多く、色物が少ない状況にあったが、高冷地産の入荷も本格化して色のバランスは改善されてくる見込み。相場は業務の動きによるところが大きい、新盆需要にも期待される。</p>					
小 ぎ	実績	25年	2,542	23		
		26年	2,408	15		
		27年	2,231	23		
28年		1,739	31			
29年		1,549	27			
5ヶ年平均		2,094	23			
30年見通し		1,600	27			
概要	<p>愛知、埼玉、奈良に加えて、長野、岩手からの入荷も始まる。当初は少なめに推移すると思われるが、高冷地産の入荷が順次増え、平年並になっていく。</p>					
カー ネ ー シ ョ ン	実績	25年	1,210	45		
		26年	1,086	40		
		27年	1,139	44		
28年		1,060	42			
29年		1,090	35			
5ヶ年平均		1,117	41			
30年見通し		1,100	40			
概要	<p>長野、北海道から入荷する。本年は3月からの高温で前進傾向にあり、7月の前半に少し一番花のピークが来るが、前年よりは高い単価帯で動くと思われる。</p>					
か す み 草	実績	25年	148	83		
		26年	120	84		
		27年	139	89		
28年		126	88			
29年		120	80			
5ヶ年平均		131	85			
30年見通し		130	80			
概要	<p>長野、福島から入荷する。入荷本数は前年より多い。七夕需要で引き合いもあるが、業務の動きが悪い月であり、全体的に厳しい販売となる見込み。</p>					

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	25年	519	125	
		26年	404	125	
		27年	383	146	
		28年	325	156	
		29年	342	131	
	5ヶ年平均		395	135	
	30年見通し		340	135	
概要	オリエンタルは新潟、北海道からの入荷。LAは新潟、埼玉からの入荷。鉄砲は兵庫、長野、愛媛からの入荷。新盆の需要も少なく、入荷が増加してきそうな上旬からユリ全体で厳しい販売となる見通し。				
洋 ら ん	実績	25年	423	94	
		26年	362	90	
		27年	392	92	
		28年	314	99	
		29年	296	92	
	5ヶ年平均		357	93	
	30年見通し		300	90	
概要	愛知、静岡、鹿児島国内物や輸入物などが入荷する。気温の高い時期になり、販売には厳しい季節となる。品質による価格差が広がることが予想される。新盆関連の引合いが若干出てくる。				
ば ら	実績	25年	856	55	
		26年	783	44	
		27年	770	50	
		28年	770	44	
		29年	707	42	
	5ヶ年平均		777	47	
	30年見通し		770	45	
概要	愛知、岐阜、和歌山、長野を中心に、山形も始まる。三重は夏休みに入る。全体的に入荷量は少なくなる。暖地産はミスト、パッド&ファンなど様々な暑さ対策を講じており、対策されていない物との差が出始める。				
枝 も の	実績	25年	1,961	44	
		26年	1,753	41	
		27年	1,848	44	
		28年	1,610	46	
		29年	1,542	48	
	5ヶ年平均		1,743	45	
	30年見通し		1,600	45	
概要	栽培物を中心に愛知、静岡、長野から入荷する。イベントもなく、全般的には軟調気味だが、ホオズキは堅調に推移すると思われる。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ア ン ス リ ウ ム	実 績	25年	30,943	975	
		26年	24,000	958	
		27年	24,357	1,053	
		28年	21,512	1,136	
		29年	20,548	1,091	
	5ヶ年平均		24,272	1,035	
	30年見通し		20,000	1,100	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。作付けは大きな変更なく、7号・6号サイズが主体の入荷となる。MIXでの入荷が多いが、色別では赤・ピンク・白が主体で、赤・白の引き合いが強いと思われる。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知(94.4%)、2位長崎(3.6%)、3位岐阜(0.8%)となっている。</p>				
フ ア レ ノ プ シ ス	実 績	25年	29,433	3,364	
		26年	29,176	3,235	
		27年	25,346	3,528	
		28年	23,506	3,435	
		29年	27,379	3,567	
	5ヶ年平均		26,968	3,420	
	30年見通し		26,000	3,000	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。特に3F40輪以上は、天候次第で品薄になる見込み。上旬は株主総会や人事異動等の兼ね合いで高額商品の動きが、中旬以降のお中元ギフトは宅配の影響もありミディー系の動きが良いと予想される。満開商品は消費者、買参人も手を出しづらいため、開花には気をつけて6部咲き位での出荷をお願いしたい。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知(56.8%)、2位静岡(9.9%)、3位宮崎(5.5%)となっている。</p>				
バ ラ 及 び ミ ニ バ ラ	実 績	25年	15,028	121	
		26年	12,030	109	
		27年	14,415	126	
		28年	11,294	116	
		29年	14,260	121	
	5ヶ年平均		13,405	119	
	30年見通し		13,000	115	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。気温の上昇とともに入荷が減り、前年を下回ると予測する。時期的に棚持ちの問題から販売面も低調で苦戦を強いられる傾向にある。このような時期だからこそ良質品の出荷を心掛けてほしい。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位岐阜(65.9%)、2位愛媛(24.9%)、3位愛知(8.5%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
オンシジユ	実績	25年	2,408	647	
		26年	1,591	789	
		27年	1,688	616	
		28年	1,837	940	
		29年	2,362	535	
	5ヶ年平均		1,977	692	
	30年見通し		2,300	548	
概要	<p>入荷量は前年並か。7月に向けて気温が上がり、開花が早まる時期なので固めの出荷をお願いしたい。1F等のアレンジ使いの需要は減っているため、3Fの寄せ、アーチ等のギフト商品への仕立てに変更をお願いしたい。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知(48.3%)、2位長崎(29.4%)、3位高知(14.0%)となっている。</p>				
スパフェイ	実績	25年	14,607	274	
		26年	9,733	315	
		27年	10,594	340	
		28年	5,201	417	
		29年	2,526	623	
	5ヶ年平均		8,532	337	
	30年見通し		2,500	600	
概要	<p>入荷量は前年並か。6月の単価が前年より安定したため、7月の商品がなくなると思われる。三重は7月前半で終了する見込みだが、愛知の6号～8号の入荷が増えてきて、岐阜の6号も例年並に入荷する見通し。単価面では6月が比較的安定していたため、7月も前半は安定する見込みだが、後半は数量も少なく上昇する予想。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位三重(41.2%)、2位愛知(32.3%)、3位岐阜(23.8%)となっている。</p>				
ドラセナ	実績	25年	30,614	847	
		26年	36,589	833	
		27年	28,200	736	
		28年	22,419	669	
		29年	22,821	754	
	5ヶ年平均		28,129	778	
	30年見通し		22,000	773	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。愛知県産が中心ではあるが、輸入原木の減少から主要品目は少なくなると思われる。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知(57.7%)、2位沖縄(19.3%)、3位三重(6.0%)となっている。</p>				



## いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.541  
平成30年7月発行  
農林水産部食育消費流通課  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052) 954-6434